

Let's Discuss our School Life!



座

談



会



## The Meeting about College life

### 座談会を始めるにあたって

68号で好評を博した座談会を再び開催しました。

今回のテーマは、ずばり「大学生活」。一年生のみなさんを中心にフレッシュな顔ぶれが集合し、大学生活の現状と展望を語り合っていました。

### ☆ 今までとは違う？一人暮らし

司会 まず、ここにいるほとんどの人が一人暮らしを始めた方ばかりだと思いますが、どうですか？

佐師 一人暮らしを始める前は不安があった

けれど、住め

ば都って感じ

です（笑）。

食事のことが

一番心配だっ

たんですけど

ど、意外にも

料理にはまっちゃって。

荒洗 家事にはまだ慣れないな。

早川 部屋の片付けが大変です。特に班活の

後の…。

天野 家具やベッドが合わなくて、あんまり

眠れないんです。

司会 切実ですね。自宅生の方は？

蓼 朝早いので眠いです。できればこっちに

に住みたいんですけど。

荒洗 でも一人暮らしはやっぱり寂しい。今

まで騒がしい家族の中で生活してたから。

高木 私は家にいない時間が長くて、寝に帰

るだけだから。一人暮らしは自由にでき

るからいい。だけど家事は親に任せて、

勉強に集中するために実家から通ってる

友達もいる。人それぞれじゃないかな。

水羽 僕は広島市内で生まれて実家から広大

に通って、結婚してから女房と二人です

から、一人暮らしの経験が一回もないん

です。みなさんの話を聞いていてなるほ

どなあと思いますよ。



### ☆ 勉強以外の活動は？

佐師 今年一年生が総合科学部のフットサル・サークルを作ったんです。今までやったことのないスポーツを新しく始めたのですごく楽しいです。フェロ<sup>(注)</sup>もやるし、結構忙しいですね。

天野 陸上競技部に入りました。中距離が専門です。

早川 総科<sup>(注)</sup>の軟式野球に入ってます。セカンドです。

荒智 僕はサードです。それとフォークソ

開催日 2006年6月14日  
場所 大学会館 集会室1にて

参加者  
教員 水羽信男先生  
17生 高木 史  
18生 天野守皓  
荒川智彦 (荒智)  
金尾太輔  
蓼 実穂

荒川洸一 (荒洗)  
鬼崎聖大  
佐師智郁子  
早川 光

司会 宮下綾奈

記録その他 (飛翔編集員)  
五十嵐太郎 伊東 遥 小野未千恵  
栗原早帆美 濱本明恵 村上真理恵

グ。夏休みはアルバイトで稼いでギターを買いたい。

荒洗 中学、高校でやっていたバスケットを続けています。日課としてはいいと思っています。ます。

金尾 フットサルとフォークソングです。勉強との両立は難しいですね。

蓼 フットサルと邦楽部に入っています。琴が弾けるようになりたかったです。

鬼崎 浴衣祭りの準備で忙しいです。総代なので自分からイベントを作っていくのは大変だけど、みんな協力してくれるので助かります。おかげで毎日が充実しています。

### ☆ 人間関係

高木 大学って全国からいろんな人が来てておもしろい。総科のみんなとも仲良くなれたし、親友もできてこんなに人間関係が充実するとは思わなかった。

水羽 上下の関係はどう？  
上の学年の人と話をする機会とか



ある？

早川 17(注)とは仲がいいと思います。16とは接点がないな。

一同 サークルぐらいだね。

水羽 僕は文学部で育ったんだけど、ドクタ(注)1で30歳くらいの人と一緒にお酒を飲んだりしておもしろかったですよ。

村上 二年生になってプログラムに分かれれば、少しずつそういう機会も増えてくるかもしれないですね。

司会 逆に先生にお聞きしたいのですが、大学に入ると高校までの先生との関わり方とはずいぶん変わってきますよね。先生方は、学生に積極的に話しかけて来て欲しいというのはありますか？

水羽 先生によるかな。高校の先生はものすごく責任が重い。例えば進路指導も、生活指導も。そういう意味では、大学の先生はある種、気楽に学生と関わり合えるよね。だから、上手くすると、色々な話ができると思う。僕自身は大学三年になって専門をやりだして、人間的にももしろいなと思った先生と自然に打ち解けて話すようになった。大学の先生ってのは、若い人と話しをするのが好きな人が割と多いんじゃないかな。

### ☆ プログラム制

司会 そういえば、今年から新編成で6プログラムから10プログラムになりましたが、どうですか？

金尾 僕はやりたいことが決まっていて、10のプログラムの中の一つを目指してここに来たから、10個に増えて多すぎて困るとは思いません。今までは、成績によっては自分の入りたいプログラムに入れな可能性があらって聞いていたので不安だったけれど、今年から全員、希望のところに入れるようになった。安心して安心しました。



高木 確かに私たちの時は友達と優の数を比べ合ったりして、微妙な空気だったなあ。まだプログラムを決めない人も、決めた人も、今の内にいろんな分野にちょこちょこ手を出して、関心を広げておく方がいいと思う。

☆ 単位上限

司会 プログラム

ム制の他にも単位の上限が24から26単位になりましたよね。それに



ついてはどうですか。

荒洗 僕はいろんなことをやってみたくも思っていたから、26では少ないと思います。単位不要で取ってる授業もありますから。上限はない方がよかったです。

佐師 最初に授業を選んだ段階ではもっと取りたいと思ったけれど、実際授業が始まってみると、レポートに課題に、先生に薦められた本を読んだり、時間が足りないくらい。だから目安としては上限があつた方がいいかな。

荒洗 確かに消化不良の感は今でもある…。  
荒智 26は少ないと思う。でも成績優秀者は上限を外せるから、きちんと勉強してくれる人に授業に出てもらおうためのシステムだと解釈してます。

水羽 授業は予習・復習を含めて単位になるんです。きちんと勉強しようと思えば26単位以上は不可能。楽をして単位が取れ

るような授業は教え方にも問題があるだろうってことで、決められてるみたいですよ。

☆ 総合科学部で何を学ぶ？

水羽 ちょっと素朴に聞いてみたいんだけど、総合科学部の特徴ってのはみなさんから見てどこにあるんですか？他学部に対するプライドとか引け目ってあるのかな。

天野 気づいたらこの学部に来た。

一同 (笑)

荒洗 僕はまだ自分の可能性を一つに絞りたくなくて総科に来たんです。自分のやりたいことを探せる場所として見つめていきます。

天野 可能性の幅が広いというのはすばらしいことだと思います。だから、別に引け目もないし優越感もない。不満もなく現状に満足してます。

佐師 私は、個人的に環境問題の解決にすごく興味を持っているのですが、一つの分野からのアプローチでは上手く行かない面があるので総合的に勉強したいと思っていたんです。そんな時に佐藤学部長の「重点的ジェネラリスト」という言葉を見て、是非こんな風になりたいなと思つて来ました。それができる場所ってなか

かないんです。

水羽 他学部の人に「専門的なことは知らないんだろ。」とか言われませんか。

荒洗 何やってるのかよく分からん、とは言われます。

藪 総科は「広く浅く」というイメージがあつて、自分がどれだけ頑張るかにかかっている気がします。自分から「これをした」と言えるものを作っておかないといけないみたいです。

荒智 僕は「広く」とは思つても、「浅く」とは思つてません。例えば、携帯電話を作るときに工学的な技術を学ぶだけでなく、デザインの技術も必要になりますよね。使う人の立場に立つて考える、心理学的な要素も。そういうことを学ぼうと思えば両方学べるのが総合科学部だと思います！



☆ 大学生活に望むもの

荒洗 今いろんなことに挑戦してますが、大学で、自分がやりたいことを見つけて、それが一番かな。

蓼 将来のために勉強もしたいし、サークルも頑張りたい。



金尾 大学に入って始めた新しいことを、一つ一つ自分のものにしていきたい。

早川 単位を落とさないように気をつけたい。それから、早く自分の進路を決めたいです。

天野 肉じゃがを作れるようになりたい(笑)。  
荒智 勉強もサークルも家事も、やるべきことを全部こなしていくこと、今はそれだけを考えています。

佐師 大学時代にしかできないようなことができるだけたくさんやりたいです。そうして、大学を卒業するまでに、人間としてもう一回り大きくなりたい。しっかりと自分を持って、社会に出た時にやりたいことをできる力を付けたいと思っています。

鬼崎 総代としてきちんとやっていきたいです。  
すね。

水羽 やりたいことがある、ないで結構悩んでいる人も多みたいだね。でも、決まってるって人に言いたいのは、大学生の内に、自分の考えを揺るがすような経験をやってみてはどうかかってこと。決まらないことを楽しむというか、頑張るというか。安易に決めてしまわないで悩み続ける、そんなタフネスを持って欲しい。それもかっこよさの一つだと思っんです。

みなさんの先輩達を見てきて、そういう人が輝いていたから。もちろん決まってる人はそれを貫くのもいいんだけど、総科に在るのだから、あえて揺るがしてみるのがいいんじゃないかな。

司会 皆さん、今日はありがとうございました。



注 a フェロー イベントのために編成される班の班長。

注 b 総科 総合科学部の略称。

注 c 総代 総合科学部の学生代表者。

注 d 17・16 平成17年度入学生。同16。

注 e ドクター 大学院の博士課程後期。

(担当 17生 村上真理恵)